



# そねひがし通信

2021年 学力特集号

北九州市立曾根東小学校

文責 校長 澤野 孝雄

本年度の合言葉【徳】心は優しく【体】体は強く【知】頭は賢く



## 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

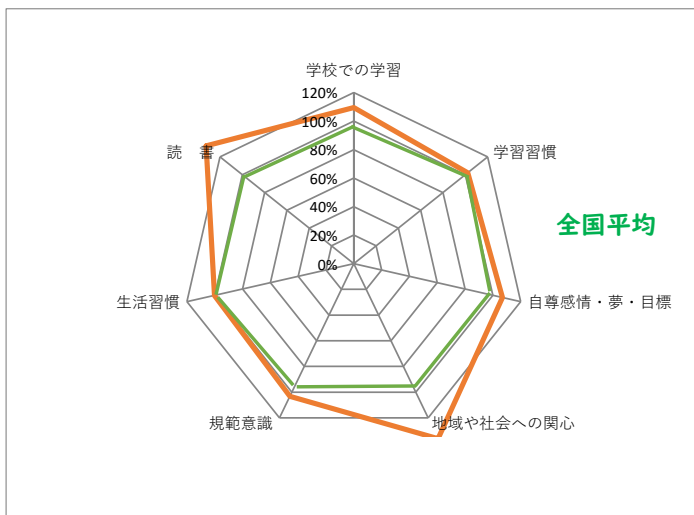
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語	全国平均と同程度である。無回答率は低い。説明文において文章全体の構成を捉えたり、文章の中での語句の使い方を問う問題はよくできている。しかし、記述式問題の正答率が低く、自分の考えを適切な文で表現する力に課題がある。	同程度である
算数	全国平均を上回った。全体的に無回答率も低い。どの領域の問題にも粘り強く取り組むことができている。	上回っている

### 2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



#### 質問紙調査の結果分析

- ・地域や社会への関心が、全国平均と比べ著しく高い。環境教育を通して、地域の魅力に触れ、地域の方を出会う授業を行ってきた成果だと考える。
- ・読書量は、全国平均より著しく高い。
- ・学習習慣において、学校の授業以外で1時間以上学習している児童の割合が少ない。全校で自主学習ノートに取り組んでいるが、今後も継続が必要である。
- ・学校での学習において、「話し合う活動で、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝える」「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできた」の割合が高く、全国平均を大きく上回った。本校の研究において、『対話的な学習の工夫』や『教科横断的なカリキュラムマネジメントを意識した授業』を積極的に行ってきた結果だと考える。
- ・本校の長年の課題であった自尊感情に関する質問「自分にはよいところがあると思う」と答えた児童は、全国平均を大きく上回った。今後も、学校や学級への有用感を高めていく取組を継続する。

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

- 学力向上に関する職員研修の取組①学力状況調査で明らかになった課題等を全職員で共通理解した。②スクールプランの見直し
- 学力向上のための特設時間の実施…朝の活動時間（8:40-8:55）の取組（月曜…読書タイム、木曜…1・3・5週国語タイム2・4週算数タイム）
- 学習スタイルの共通化…めあて・まとめの提示と振り返り時間確保、ノート形式、振り返りの視点、ソネットケース等についての共通理解
- 理科・音楽の専科授業 ○思考の視覚化（ICT機器、ホワイトボード、思考ツール等）によるどの子にも分かる授業づくり

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習定着のために…曾根東小学校オリジナルの自主学習ノート「そねっとノート」に全校で取り組む。
- 生活リズムが整った健康的な生活づくり①学校だよりや保健だより等で家庭へ啓発を行う。②夏季・冬季休業日中の生活リズムカードに全校で取り組む。
- 自尊感情を高めるための取組①児童主体の活躍の場を設定する。②〇のつく日あいさつ運動③「子どもつながりプログラム」の活用